



命の尊さを学ぶ 「赤ちゃん先生」

子育てに追われるお母さんたちは、とかく社会から孤立しがちな存在です。そうした問題を解決しつつ、赤ちゃんの素晴らしさを世の中に発信できればいいのでは——。そんな着想から生まれたのが「赤ちゃん先生」。今回はこの事業を松本平で展開する、「ママの働き方応援隊 長野松本校」の活動を紹介します。



**孤立しがちなママさんたちを
赤ちゃんと一緒に社会参画へ**

「お母さんたちが妊娠出産を機に仕事をやめたり家に引きこもったり、社会的に繋がりをなくしているケースは多いです。赤ちゃんの力って誰がどうみても可愛い存在であるところから、赤ちゃんの持っているエネルギーで地域を変えていくというのがスタートです」

ママの働き方応援隊 長野松本校の代表・塩瀬春香さんはそう教えてくれた。

ました。この取り組み自体は7年前に神戸市からスタート。徐々に活動の範囲を広げ、長野県では塩瀬さんから活動を始めました。

なぜこの活動を始めようと思ったのでしょうか。塩瀬さんは「上の子が新生児だったとき、『この子もいつかじめられるのかな?』という気持ちが芽生えたんです。自分の力だけでいじめをなくしたいというのが始まりでした。そうした思いを持ちながら3人目の子が生まれてからこの活動の話を聞き、『これなら私もできるかも』と思って始めることにしました」と振り返ります。

中信地方で活動がじわり浸透 児童らに「命の尊さ」伝える

わずか3人でスタートした長野松本校も、今では中信地方に60人ほどの同志が増えました。松本市や安曇野市、塩尻市などの小中学校や高校、高齢者施設などに赤ちゃんママを「先生」として



て派遣。そこで命の尊さを子どもたちに教えます。

「0歳児とか1歳児の赤ちゃんを小学生が間近に見て、『僕たちはこんなに大きくなったんだ』ということを経験してもらいます。あとは『お母さんはこんなに寝られないんだよ?』とか、育てる上でのリアルな話もしますね。自分も親に手をかけてもらったから、周りのお世話があったから今がある。自分一人だけで大きくなったわけではないことを感じてほしいし、自分の命も友達の名も大切にされてきたことを感じてもらうって、いじめや自殺を防いでいきたいです」

そしてポイントは、ボランティアではなく有償であること。団体名「ママの働き方応援隊」の通り、ママにとっては赤ちゃんと一緒に取り組むべきとした「仕事」なのです。派遣される前には必ずしっかりと1日間の研修を受講し、そこから現場に行くよう仕組みづくり。「母親」を養成する役割の人もいます。こうして赤ちゃんを通じて命の尊さを伝えるとともに、孤立しがちなママさんにとって社会参画ができる場も生み出しているのです。

「子ども祭り」のイベントも開催 夢は長野県内へ活動を広げること

活動は「赤ちゃん先生」だけではなくありません。11月16日には、「第2回子ども祭り安曇野」を開催。当初は10月12日に開催予定でしたが、台風19号の影響でこの日に順延となりました。中止ではなく順延とした経緯について、塩瀬さんは「イベント経験者もいない中でブース50店舗を集めたり会場の雰囲気を考えたり、子どもたちが遊べるフリースペースを作ったり：お母さん一人ひとりの能力と力で準備していました。あとは子どもたちもお店を出すのを楽しみにしていたので、中止という選択はできずして」と語ります。

それだけたくさんの思いが詰まった「ママさんたちの活動。今後はどのように展開していきたいのでしょうか。『赤ちゃん先生との触れ合いから学び、自分を大事にしないといけない』という子どもを一人でも増やしていきたいです。松本や塩尻にも支部があるので、ゆくゆくは中信地域と長野県内で当たり前のようになら『赤ちゃん先生』をやるような環境を作っていきたいです」と塩瀬さん。実際、感銘を受けた学校の先生が転勤先でまた呼ぶ——というケースも出始めているそう。赤ちゃんの可能性はまさに無限大なのです。

ママの働き方応援隊 長野松本校

代表 塩瀬春香さん

